

平成 27 年度まちづくり懇談会会議録【小笠東地区】

日 時 平成 27 年 12 月 7 日（月） 19：00～20：10
会 場 小笠東地区センター
参加者 70 人

※「今後のまちづくりについて ～人口減少社会への対応～」と題した説明のあと、参加者の皆さまとの懇談（質疑応答）に入りました。

※会場からのご意見・ご質問

「①菊川市まち・ひと・しごと 創生総合戦略」についての所感・ご意見

●丹野・男性

優良企業の誘致ということではありますが、この中で企業誘致に向けた取り組みの推進というのが入っています。これから伸びる企業を誘致していただきたい。裾野市、長泉町というところがありますが、人口も増えている、若い人も増えている、市の財政も伸びている。菊川市も有力な企業が誘致できれば財政的に豊かになるし、街も活性化すると思います。例えば IT 関連企業、あるいは環境関連、将来的に伸びる会社が良いと思います。菊川市は立地条件が非常に良い。静岡空港、御前崎港、東名、新東名、国 1、河川、水があり、すばらしい立地条件。企業を誘致するには色々な法律があるのは承知しているが、是非、第二次総合計画の中に具体的な施策を盛り込んでもらいたい。

○建設経済部長からの回答

確かに人口減少とかそういう問題には企業誘致、これは効果のある取り組みで市としても是非推進したいと考えているところがございます。市内の企業誘致に向けた具体的な現状ですが、色々な法律の縛りがあります。その中で用途地域というのが市内に定められておりまして、その用途地域の中にも工業の専用地域、工業を導入する地域が定められているわけですが、工業導入地域の何割かですけれども埋まっております。残っている地域というのは開発をすると非常に弊害、例えば水問題といった弊害が出たり開発すること自体にお金がかかったりといったところが残っている状況です。

企業を誘致する場合、大きく二つありまして、一つは安い土地を企業は選んできますので、他市と比べて価格が安いというのが一つと、交通の便が良い、こういうところがございます。今言ったところはどうしても開発にお金がかか

ってしまうので、開発してもなかなか良い企業が来ないとか、そういうのがありますし、企業が進出を考えているとすぐということですので、市としてはそういう土地を作っておいて待てば良いというのもなかなかそこまではいかないという問題があります。しかし、冒頭言いましたように企業誘致というのはこれからの菊川市にとって必ず必要なものだと考えておりますので、いろいろな条件がある中で私共としましても良い企業がこれるような土地、開発を検討してまいりたいと思います。それと併せて行っているのが、今、市内にある企業にこれからも市内に居てもらえるように施策の中でそういったところにも取り組んで行くところがございます。

●丹野・男性

ありがとうございました。土地が限られているという話もございましたが、例えば三沢の工業団地に開店休業というか動いていないところがあります。ああいう所を整理して別の企業を持ってくるというのも一つの方法です。そういうことも是非考慮してもらえたらと思います。

○建設経済部長からの回答

市も担当職員が色々な企業を訪問しておりますし、金融機関とも情報を入手するために訪問させていただいております。そういうお話がありましたら有効利用できるように積極的に取り組んでいきますのでよろしくお願いいたします。

「②菊川市の公共施設のこれから」についての所感・ご意見

質問なし

●**その他**

●丹野・男性

お茶というのは菊川の基幹産業ですね。先日、雑誌を見ていたら牛乳で乾杯条例というのが北海道の中標津町というところで条例を作って取り組んでいる。小中学校の給食、商工会議所の会議、地域の会合、飲み屋での一杯、いろいろ対応して町民が乾杯するということでした。是非お茶で乾杯というのが良いのかなと思います。お茶がなかなか良い商売でなくなっている。というのはお茶の需要がない。菊川市民がお茶の大事さというのをしっかり考えて取り組んで行くことが大事かと考えております。例えば香典返しのお茶があります。若い人はいらないと言う。急須がないからと言う家もあります。

もう一つは真剣に取り組んでいる事例として、菊川の駅前に居酒屋がありま

すが、お茶が土瓶ででてきた。土瓶で茶葉のお茶が出てきたのは初めてです。まさに菊川のお茶の発展を考えている。もっともっと市民が茶葉を飲むということを考える必要がある。5年前地元に戻ってきていろいろな会議に出るが、急須でお茶が出たのは1回だけ。市の会議、地区の会議、いろいろな会議がありますが、もっともっと急須でお茶を飲む雰囲気、そういうのを盛り上げていかないと、お茶がますます衰退してしまうのではないかと思ったので、そんな条例も検討していただけたらと思いました。

○建設経済部長からの回答

お茶につきましては、平成12年頃から需要の低迷、供給過多、消費者の多様化、こういったことから、お茶の業界は非常に厳しい状況となっております。こういった状況は県外の茶産地も同じ課題を持っておりまして、同じ苦しみを味わっているところです。その中でお茶で乾杯とか急須が無い、こういったことについても、リーフ茶を飲む習慣を付けるような取り組みを考えてまいりたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(閉会：20：10)